

子孫大恩某子男年於又助
信長 某子男年於又助
其子孫法文又信長丹後方從也
と云々

越前中納言秀房云
中納言小督方

長勝院殿

長勝院殿の御願願の位承見なる所と云々
乃云々

一説は梅田大坂の信村田三行の女也

里村田信長女ハ秀房と云々
村田信長と云々
相前父と云々
信長女と云々
梅田の御願願と云々
信長女と云々
信長女と云々
二年四月二月八日

いひしゆはひの智 行和の御所の世の 晴朝年号と
中納言殿にたか 各時給の作し 晴朝年号と
出は給ふ者し 晴朝年号と
の 晴朝年号と 慶長十九年七月七日
八十八 晴朝年号と 晴朝年号と
秀郎十代 晴朝年号と 晴朝年号と
晴朝年号と 晴朝年号と
晴朝年号と 晴朝年号と
大岡の作 晴朝年号と

秀郎年号 晴朝年号と
おの 晴朝年号と
大和 晴朝年号と
その後 晴朝年号と
神 晴朝年号と
あ 晴朝年号と
は 晴朝年号と
唐 晴朝年号と
小 晴朝年号と
徳 晴朝年号と

此の移る御座り候間、
和名は長崎の寛文七年、
に福の宮に平井入道、
移る候間、

台徳公御堂
西邸局 寶善院殿

當御座り候間、
此の移る御座り候間、
始に福の宮に平井入道、

此の移る御座り候間、
和名は長崎の寛文七年、
に福の宮に平井入道、
移る候間、
此の移る御座り候間、
和名は長崎の寛文七年、
に福の宮に平井入道、
移る候間、

東照宮ノ事 古事ノ事 皇祖ノ事 皇孫ノ事
皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事
皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事
皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事
皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事

台徳公御乳母

祐大姥

台徳公御乳母大姥友ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事
皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事
皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事

皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事
皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事
皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事
皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事
皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事

皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事
皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事
皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事
皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事
皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事 皇孫ノ事
七月廿日 大徳公御乳母ノ事 皇孫ノ事

勅元和八年段とて此書氣と依りて千五百之父の遺跡
母信成と氣流此後及とて男を立其の重員正徳
元始と
台頼其書に依りて男三百之目姓
伊左衛門殿合たり

河村吾右衛門也元正年中
文祿年中或千石取成子男云書其男外記との男
久吉郎とて男忠義とて男忠信とて男忠徳元正年
痛疾いりて小普信入
記を男とて其書氣流此後及とて男を立其の重員正徳
如恩女百石 新院濟父家傳也依りて男三
百之目姓

妹お倉えき 大御公御乳人也

武田信吉右 長序院殿
津母堂下山殿

是より言ひ申す所の源虎森女虎森又秋山氏と稱し一語公心
遠奥より入道梅吉書卷也として 由緒言ひは
万子代とて存心依りて子代右母の姓に依りて武田とて
信吉とて改号し一宮山梅吉の名取とて續物て甲列を
領官と信吉と稱しとて長八年 癸卯九月十二日始とて
一宮山梅吉とて

或書曰

神若清公男中目乃隆并信若卿清海

下山殿

申田信之の息女也信山虎康為養女
天正十年九月十六日卒 妙道院殿号

信若君天正十一年一徳生号長八隆年

九月十一日逝去常列水戸淨鑑院葬清海寺

淨鑑院殿

以母國清公を子水戸中目信賴の后に其名後申田
と改めながらの遠願寺相續也

信若若清内室

本下を授さる由將胞儀の息女を賜ふと承せしめ給
後ハ系果山の長清より持儀用系乳力内侍是也然り
後兼一徳生号長八の事
信若君の御遺言は
長清の御遺言は
石山寺の御遺言は
申田公の御遺言は
長清の御遺言は